

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年5月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1090100049
法人名	特定非営利活動法人 三和会
事業所名	グループホーム かしわぐら
所在地	群馬県前橋市柏倉町855番地8 (電話) 027-284-0006

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年5月12日

## 【情報提供票より】(20年4月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19 年 5 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	12 人 常勤 5 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 8.6 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日(1,000)円			

### (4) 利用者の概要 (4月20日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	80歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠山医院 前橋協立病院 金子歯科朝日町クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは自然豊かな環境の中にあり利用者は四季折々を肌で感じる事ができる。建物は木造で木の温もりや匂い、色調も落ち着いた色合いであって、窓は大きく開放感があり自然光が多く注がれていた。管理者、職員一同は連携を密にししながら、「その人がその人らしく自由に生活」を、自然体で過ごせるように支援に取り組んでいる。利用者は新聞持ち、掃除、畑仕事、買い物、洗濯物を畳む、手作りの食べ物(手打ちうどん、蕎麦のおやき、焼き芋、流しそうめん等)、季節の花見、散歩、ドライブ等の役割や楽しみ、気晴らしをしながら生活にメリハリをつけ、ゆったりと自由でのんびりと穏やかな生活が送られているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価が初回であり該当なし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を理解し、今回の自己評価は職員全員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催しており、事業所から利用者の状況や行事報告等を行い、参加者から意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等は運営に反映させるように取り組んでいる。家族には行事表の配布や来訪者が記入しやすいように面会簿の記入内容を簡素化する等の改善を配慮している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の訪問時には話しやすい雰囲気留意し、意見等を聴くように努めている。運営推進会議には家族等に参加をしてもらい意見等を聴くように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方から野菜や花を頂く、散歩時等に挨拶や話をしたり、見学や気軽に立ち寄り話をして行く、移動販売車(パン屋)が来た時等で地域の方との交流が図られている。地域の方からの協力で畑を借してもらい野菜を育て楽しんでいる。ホーム前の道路清掃も自主的に行っている。自治会加入については申し入れをする等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を端的に示した事業所独自の理念を掲げているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念をつくりあげていない。	○	これまでの理念を見直し、「地域の中でその人らしく生活することを支える」地域密着型サービスの役割を職員全員で話し合いながら、事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理事長と施設長、職員は会議等で理念を共に意識しながら話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方から野菜や花を頂く、散歩時等に挨拶や話をしたり、見学や気軽に立ち寄って話をして行く、移動販売車(パン屋)が来た時等で地域の方との交流が図られている。地域の方からの協力で畑を借してもらい野菜を育てている。ホーム前の道路清掃も自主的に行っている。自治会の加入については申し入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、自己評価項目の内容を確認し、意見を求めながら全職員で取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、事業所から利用者の状況や行事報告等を行い、参加者から意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等(行事表、面会簿の記載内容等)は運営に反映をさせるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に出かけ報告や相談、介護保険申請の手続き等で連携を図っている。また、電話等でも相談や質問等を行い助言をもらっている。窓口には時には利用者と共に訪れることがある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの家族の訪問が頻回にあり、その都度、生活状況や健康状態等の報告をしている。また、電話等でもするようにしている。金銭面も報告を行っている。本人から年賀状や暑中見舞いを家族宛に出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、何でも話してもらえるように配慮しており、意見や要望は運営に反映をさせるようにしている。運営推進会議には、家族等に参加をしてもらい意見等を聴くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐために、職員の働きやすい環境に留意し、職員の固定化を図るように努めている。開設時より職員の離職者はなく馴染みの職員が対応することができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や能力に応じて、高齢者歯科医療講演、身体拘束廃止に関する等の外部研修に積極的に参加をするようにしており、職員会議等で報告を行い質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、同業者との交流や連携を図っている。近隣の福祉施設と利用者・職員は共に交流している。また、職員は学習会等に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族からよく話を聴き、状況等を確認している。見学をしながら利用者、職員と交流を図りながら雰囲気慣れしてもらっている。また、必要に応じては病院や自宅に出向き、本人と馴染みになるようにしている。安定的な利用になるように、家族等の協力を得ながら安心感を持ってもらえるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側・介護される側でなく共に生活者として、生活上のことを一緒に行い、お互いに感謝の言葉を交わす関係が築かれている。散歩時には草花の名前や地名、地域の方の名前、料理の仕方等を教えてもらう場面も多くある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係りの中で、本人との会話等から思いや希望を汲み取るようにしている。何をするにも本人の思いや希望を聴き、意思を尊重しながら意向に添えるように努力している。また、困難な場合は、言葉かけを行い本人のサインを感じ、思いを推し測ったり、それとなく確認をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。ケース会議で職員が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、状態の変化に応じて見直しを行っている。定期的な見直しについては、3ヶ月に1回モニタリングを行い、新たな介護計画を作成している。	○	安定している利用者の場合でも月に1回はモニタリングを行い、本人や家族等の意向や状況を確認すると共に、職員の情報や気づき、変化の兆しに予防的に対応していくためにも介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、買い物、申請の手続き等必要な支援は柔軟に対応しており、いつでも応じられるよう支援体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所の協力医療機関の説明を行い希望するかかりつけ医を決めてもらっている。定期的に訪問診療に来てもらい適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に対する対応指針を定め文章化しており家族に説明をしている。状態の変化があるごとに、家族、医師、事業所等で繰り返し話し合いを行い、家族の意向を確認しながら、関係者全体で対応方針を統一し支援することを共有している。事業所では、家族の意向に添い関係者全体の協力の下で看取りの経験もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護、プライバシーの尊厳、個人情報の取り扱い等については徹底した指導がなされ職員全員は理解し、誓約書等も作成している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を大切に、自分のペースで生活が送れるように支援をしている。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ希望に添って支援するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう支援をしている。皮むき、下膳、お盆拭き等職員と共に行っている。家庭菜園で季節の野菜を育て、収穫し食卓を潤している。また、献立に好みを取り入れたり、外食等も行い食事が楽しみのある物になるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴開始(月～土曜日)は午前と決めているが、このことに捉われず利用者のその日の希望を確認し入っただけにしている。また、入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫をタイミングに合わせた入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞持ち、掃除、畑仕事、草取り、買い物、洗濯物畳み、下膳、お盆拭き、ふきのとうを取りに行く、季節の花見、ドライブ、散歩、外食、路線バスに乗る、嗜好品(喫煙、酒)等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。手打ちうどん、蕎麦のおやき、焼き芋、流しそうめん等、利用者と職員と一緒に作るなどの楽しみがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、季節の花見、ウッドデッキや庭に出る等、利用者が戸外に出て季節を肌で感じ楽しめるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず開放してある。見守りを行い利用者が外出しそうな様子に気づくと止めるのではなく、さり気なく言葉かけや一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に避難訓練、防火訓練を実施している。地域の方には、自治会長を通じて協力依頼をしてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立には利用者の希望も取り入れており、状態に応じて、食べやすいように工夫等も行っている。食事量、栄養バランス、水分量等の摂取状況は把握しており、摂取量の少ない利用者のみ記録はしているが全員の記録はしていない。	○	一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量の把握はしているの、摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有されることが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花や植木等があり季節感が演出されている。玄関や洗面所等に暖簾や玄関には他国の置物が置かれ、ホールや廊下の壁に絵画、切り絵等が飾られている。ソファとテーブルが置かれ、台所はオープンキッチンで利用者から調理の様子やご飯の炊ける匂い等が漂い生活が感じられる。木の温もりと自然光が注がれ落ち着いた環境で居心地のよさがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理ダンス、鏡台、椅子(藤、ソファ等)、寝具、化粧品、衣類賭け、ぬいぐるみ等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせる居室となっているように見受けられた。また、家族から依頼があれば自宅に向き持ち込み品の搬送の手伝い等も行っている。		